

日時：2012 年 7 月 21 日（土）13：00～

場所：新大阪丸ビル新館 9 階 904 号室

出席者：難波、石島、由良、今田、大沼、神取、須藤、瀧ノ上、出村、南野、光岡、村上、山下、本間、七田、寺沢、中村、相沢、永山、曾我部、片岡、垣内

報告事項：

1. 平成 24 年度年会準備状況（本間）：報 1

本間年会実行委員長から今年度年会（名古屋）の準備状況の報告があった。中西印刷からの報告資料が示され、事前登録件数は、昨年並みの登録件数で、順調である。参加証の再発行手数料は、当日の対応の手間を考え、なくすことにした。また、支出削減のため、初日の新旧合同運営委員会の弁当をなくすことにしたことが報告された。プログラムの初稿（PDF）を現在校正中であることが説明された。懇親会の会場（生協）は、1 階 600 人、2 階 200 人収容可能であり、2 階でもメイン会場の様子がモニタを通して分かるようになっている。予算案についての報告があった。会場についての説明があった。最後に、被災地学生登録件数は 27 人であったことが報告された。

2. 平成 25 年度年会準備状況（七田）：報 2

七田年会実行委員長から、平成 25 年度年会についての準備状況が報告された。場所は、京都の国立京都国際会館であり、10 月 28 日（月）-30 日（水）、公開シンポジウムは 27 日（日）の日程で開催される。予算案が説明され、赤字見込みになっているので、支出を下げる方法を検討している。公開講演会は、予算削減のため京大・芝蘭会館で行う予定である。

3. 出版委員会報告（石島）：報 3

「生物物理」誌について、中村会誌編集委員長から「生物物理」投稿規定の改定について報告があった。改定により、依頼原稿中心の構成から投稿原稿の割合が増えた雑誌になることを見込んでいるとの説明があった。特集記事の企画についても説明があった。

「BIOPHYSICS」誌に関して、石渡 BIOPHYSICS 編集委員長の代理で、石島出版委員長から説明があった。Web of Science で検索すると、BIOPHYSICS の雑誌名がロシアの雑誌（BIOPHYSIKA）と混同されていることが発覚したため、Web of Science に修正を求めることにした。Impact Factor を計算してもらうには、ある期間、ある論文数をコンスタントに出版していなければならないので、BIOPHYSICS 誌は、もう少し継続的に論文数を増やす努力を続けていく必要があることが説明された。

HP 編集委員会の活動報告に関して、相沢 HP 編集委員長から、報告があった。PDF 版生物物理誌ダウンロード機能、問い合わせフォームの導入が実現した。現在、HP への学会年間行事予定表の掲載や、Twitter・Facebook の ID 取得が検討中であることが報告された。また、現在、分野別専門委員への研究紹介（啓蒙）ページの依頼を準備している。大沼委員が作成した見本（原案）が示され、分野に関係するキーワードが含まれているようにし、一般の方からの検索に引っかかりやすいような内容になることを検討していることが説明された。また、研究に使用している機器名を企業名とともに掲載し、リンクすることで、広告の効果も期待できるのではないか、検討している。

4. BIOPHYSICS 論文賞選考委員会報告（難波）：報 4

BIOPHYSICS 論文賞の選考結果について難波会長から報告があった。BIOPHYSICS 論文賞規定の修正案が説明され、承認された。BIOPHYSICS 論文賞選考委員会規定の修正案が説明され、こちらも承認された。

5. 会誌の電子化について（石島）：報 5

「生物物理」誌学会 PDF 版ダウンロード状況について報告された。学会員からのダウンロードは 1036 回、非会員からのものは 145 回であった。ダウンロードした人の所属は大学・研究機関がほとんどであった（876+131 回）。また、学会ページから直接ダウンロードした件数は 364 回、J-STAGE 経由は 595 回であった。メールによるアナウンスの直後に学会ページからのダウンロード件数が増える傾向があり、メールによるアナウンスは効果があることが分かった。今後も引き続き、ダウンロードができることを告知していくことが必要であると説明された。

年会の予稿集のダウンロードに関しても議論があった。中西印刷に依頼すると、システム改修費用がかかるが、学会 HP に URL 非公開で置いておけば費用はかからない。今年度は、冊子体もある過渡期であるため、公開日等に関して、特許絡みの問題はない。しかし、すでに前回の運営委員会で中西印刷にシステム構築を依頼することを決めているので、今年度は会員ページと学会 HP に置いておくこととし、パスワードを掛けるということで意見が一致した。

6. 男女共同参画・若手問題検討委員会報告（由良）：報 6-1,2

7. 男女共同参画学協会連絡会報告（由良）：報 6-1

由良委員から男女共同参画・若手問題検討委員会および男女共同参画学協会連絡会についてまとめて報告があった。男女共同参画連絡会の大型アンケートに関する説明があった。また、第 10 回シンポジウム（10 月@慈恵医大）に関する説明もあった。女子高生の夏の学校（8 月 9-11 日@埼玉県嵐山）では、由良委員が「タンパク質のかたちとはたらき」をテーマとしたポスターおよびコンピュータを用いた実習を行う予定であることが説明された。

若手奨励賞招待講演者の選考に関して説明があった。女性からの応募が少なかったもので、次回以降増加するようにさらに告知等が必要であるとの指摘があった。

名古屋年会での男女共同参画・若手問題シンポジウム（ランチョンセミナー）について説明があった。今年度は「博士号を取得して多様なキャリアパスを手に入れる」と題して、様々なキャリアパスを持つ方、および、キャリアパスに精通する方 3 名程度に依頼して発表してもらうことが決まっていることが報告された。生物物理学会として男女共同参画・若手問題としてどのような問題があるのか、何を対策していくべきか、調査検討していく必要があるのではないかと指摘があった。

8. 平成 25 年度次期会長および平成 25・26 年度委員選挙結果報告（南野）：報 8

平成 25 年度次期会長および平成 25・26 年度委員選挙結果報告について、南野委員から報告があった。投票数 466 票（内無効票 5）であった。46 票までで 22 名、45 票が 4 人となったため、抽選で 3 人を選んだ。この抽選に漏れた 1 名は会長指名枠で当選となった。また、若手からの当選がなかったため、若手候補 1 名が会長指名枠で当選となった。投票がマークシート化された昨年に引き続き、若手候補が選挙で落選する現象が続いている。生物物理学会の運営には、若手の意見が重要であるため、若手の投票数

を上げるように、よく選挙投票の告知をする必要が指摘された。

9. 平成 23 年度会計監査報告（難波・曾我部）：報 9

平成 23 年度会計監査に関して曾我部氏から、報告があった。会計監査に対する意見が示された。財務・会計は適切に処理されているとのコメントが紹介された。学会収入の増加策に関して説明があった。今後、年会参加費による収入が、1 つの収入源になるので、大会参加者数を増やすようなことで、収入増加の対策できる可能性があることが説明された。また、参加者数が増えるにつれ、会場の問題もあるので、地方巡回方式が良いのか、大都市を行き来する方式が良いのか、いずれ検討することが必要になるとの指摘があった。また、海外からの参加者を増やす（特にアジア圏）ことも重要であることが説明された。

10. IUPAB・ABA 関連報告（永山）：報 10

永山氏から、IUPAB・ABA 関連報告があった。IUPAB の大きな活動は、3 年に 1 度の国際会議とワークショップへのファンデーションとなっている。第 8 回 ABA シンポジウムが、2013 年 5/27・29@ 済州島・インターナショナルコンファレンスセンターで行われることが報告された。

11. 生物科学学会連合連絡会報告（曾我部）：報 11

曾我部氏から、生物科学学会連合連絡会についての報告があった。次期代表候補者の推薦の依頼が来ているが、生物物理学会からは推薦を行わないことが確認された。

12. 物理チャレンジ関連報告（光岡）：報 12

国際物理コンテストの代表を選ぶためのコンテスト「物理チャレンジ 2012」が岡山で行われることが説明された。

13. 賞・助成金推薦委員会報告（由良）：報 13

生物物理学会からの日本光生物学協会招待講演・奨励賞、文部科学大臣表彰「若手科学者賞」への推薦者に関して報告があった。

14. 支部報告（支部長）：報 14

中国四国支部大会について、難波会長から説明があった。今年度は山口大学で開催され、大変盛況であった。次回は岡山大学で開催される予定であると報告された。

議題：

1. 平成 24 年度予算執行状況（光岡）：議 1

平成 24 年度予算執行状況について光岡委員から説明があった。現時点では、広告収入が伸びていない。PDF 版の学会誌に、研究で使用した機器説明など、PR があるページを作る等により、広告件数が増えるのではないかと意見があり、現在検討中であると説明があった。この予算執行状況について、本運営委員会にて承認された。

2. 平成 25 年度予算案（光岡）：議 2

平成 25 年度予算案が光岡委員から説明があった。収入の部に関しては、例年と比べ

て、学術研究事業（年会）が加わった。これは、京都年会予算を学会予算に組み込むための措置である。今までの特別会計の収入は、普及啓発事業に入れている。支出に関しては、同様に学術研究事業として年会費用が計上されている。これは、従来年会自体が支出としていた金額と、従来学会が負担していた分の年会用支出の金額を、合計したものとなっている。そのため、従来学会が負担していた分の年会用支出の相当額が赤字になっているように見える。学術研究事業（年会）の収支が合わせられるように改革する必要があり、これにより学会の支出が減らせるのではないかと指摘があった。支出の中で、運営委員の旅費が比較的かさんでいることも指摘された。ネットワークの会議システムを導入する、運営委員会の回数を減らすなどの対応が必要であるとの議論があった。本日の案では、予稿集送料が支出に含まれているが、予稿集の電子化され、予稿集のアブストラクト部分が送付されない（従来の紫ページ部分のみの送付となる）ことから、減額できる可能性があることが指摘された。「生物物理」誌と同時に予稿集（従来の紫ページ部分のみ）を送付するような仕組みを作れば、より減額できる可能性があるとの意見もあった。以上の予算案が本運営委員会にて承認された。

3. IUPAB 関連審議事項（永山）：議 3

第 18 回 IB-IUPAB (@Brisbane) に対する日本側の準備として、ワーキンググループを立ち上げたいとの説明があり、現在、野地委員が立ち上げに動いているとの説明があった。ワーキンググループの仕事は、セッションの提案とサテライト会議の提案などである。

生物物理学会での応用研究分野推進の重要性について説明があった。IUPAB は International Union of Pure and *Applied* Biophysics であり、医療などを含む応用研究 (Applied) を実質的に進めていくことため、IUPAB で Task force "Application of Biophysics" を立ち上げた。日本生物物理学会としても、応用方面に向かってどのように舵をとるか検討する必要がある、ワーキンググループの立ち上げの提案があった。

ABA シンポジウムのワーキンググループの立ち上げの提案もあった。ABA シンポジウムは、2013 年 5/27-29 に済州島で開催される。

4. 若手夏の学校奨助金について（大沼・瀧ノ上）：議 4

大沼委員から、若手夏の学校奨助金の依頼についての説明があった。運営委員会のメール審議の場で様々な意見があったため、これら意見を若手の会に一度戻し、企画運営の変更を検討してもらったことが報告された。この結果、若手の会からの発信を中心とした様々な新しい企画の考案などの努力がなされたことが報告された。この結果、若手の会の努力を鑑みた支援を行うことが承認された。

5. 生理学会生物物理学会合同シンポジウムについて（石島）：議 5

生理学会から、合同シンポジウムの依頼があり、合同シンポジウムを行うことが承認された。

6. 平成 26 年度年会開催地について（難波）：議 6

平成 26 年度年会開催地について難波会長から説明があった。開催候補地アンケートでは、北海道、つくば、東京、新潟、富山、石川、金沢、広島个回答があった。特に、運営委員からの意見として、北海道案・東京案の 2 つが多かった。北海道で行う場合、

コンベンションセンターで行うことが検討されている。東京で行う場合は、東京近郊に限らず新潟等で行える可能性もある。北海道は前回 2005 年、東京は 2007 年で行われたことから、順番として、まず北海道で開催することが適切であろうとの意見があり、結果として、2014 年は北海道で開催されることが決定し、本運営委員会で承認された。2015 年の開催場所に関しても議論がなされ、東京・金沢・つくばの案が出された。次の運営員会でさらに議論がなされることとなった。

7. 次期監事候補について（難波）：資料なし

難波会長より、次期監事を柳田敏雄氏に依頼することが提案され、承認された。

8. 名誉会員の推挙について（難波）：議 8

難波会長より、生物物理学会における、永山國昭氏の多くの実績から、永山國昭氏を名誉会員に推薦したい旨、説明があり、本運営委員会において承認された。

9. 名誉会員推薦規定の変更について（須藤・政池）：議 9

須藤委員より、名誉会員推薦規定の改訂の説明があった。この改定案を適切に修正して、改訂することで承認された。修正版をもう一度回覧することになった。

10. 啓蒙活動（クリアファイル）について（難波）：議 10

啓蒙のためのパンフレットの作成とクリアファイルのデザイン一新についての打ち合わせについて説明があった。クリアファイルのデザインに関しては、木藤氏に依頼することが説明された。また、パンフレットに関しては、内容の改変の必要性が指摘された。ブルーバックスの「生物物理とは」を刷新するのも重要でないかとの意見もあった。

11. 法人化について（片岡）：議 11

片岡法人化実行委員長より法人化の進捗に関して報告があった。組織の対応付けとして、「委員」が「社員」、年会中に行われている「新旧合同委員会」が「社員総会」、「運営委員」が「理事」、「会長」が「代表理事」となる。「代表理事（会長）」の選び方、法人（学会）所在地、決算総会、年会、年間スケジュールなどさらに議論が必要である。片岡実行委員長を中心に、法人化実行委員会を作ることが決められた。

12. 一家に 1 枚ポスターについて（難波）：議 12・議 12-2（当日追加配布）

難波会長より、文科省が作成している「一家に 1 枚ポスターについて」説明があった。2013 年は、ワトソン、クリックの DNA 二重らせんの解明から 50 年、ケンドリュー、ペルツのタンパク質 X 線結晶構造解析法に関するノーベル賞受賞から 50 年という記念すべき年でもあり、本企画に適している。難波会長より申請書の文面案が示され、本申請を提出することが承認された。

連絡事項：

1. 次回運営委員会日程について（難波）

第 4 回運営委員会（旧運営委員会）9 月 22 日（土）12:00～13:00 理学 E 館 1F E101

新旧合同委員会 9 月 22 日（土）18:00～19:00 多元数理科学棟 1F 109（E 会場）

第 5 回運営委員会（新運営委員会）9 月 24 日（月）12:00～13:00 理学 E 館 1F E101

11月の運営委員会では、現運営委員が集まることに決まった